

近世因島の過去帳

Buddhist temple death registers in Innoshima

名古屋大学環境学研究科
Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

溝口 常俊
MIZOGUCHI, Tsunetoshi

Abstract

This paper analyzes Kakocho or death registers of Mukunoura, a village in Innoshima island, to explore the reason of death in a 34-year period, 1829-1863. The following results are obtained: 1) The total number of deaths, was 707, of which 390 were male, 250 were female and the remaining unknown. 2) There were many male victims who engaged in sea transport business due to marine disasters in 1838, 1842 and 1860. 3) Serious epidemics took the lives of children in 1833, 1840 and 1848.

The numbers of tragic deaths, and rate of death were greater than those of the Tohoku district where serious famine occurred numerous times.

Keywords: death register (過去帳), marine disaster (海難事故), cause of death (死因)
Innosima island (因島)

はじめに

本稿は、瀬戸内海に浮かぶ因島で発見された同島椋浦集落¹⁾ 過去帳を翻刻し、年次別、男女別死亡数および死亡地と死因推定などについて若干の分析を加えたものである。

過去帳とは、寺院で、所属している檀家で亡くなった人の戒名、死亡年月日、享年などが書かれている帳簿である。この過去帳との出会いは「島の人々のライフコース」調査²⁾ で因島に出かけた際、明徳院ご住職との対話で「昔、海難事故があってね、それが載っているんです」といって見せてくださったことによる。長年、日本近世の家族構成、人口移動に関心を持ってきた筆者³⁾ にとって、死亡記録としての過去帳は重要資料であ

るにもかかわらず分析することを意識的に避けてきた。それはプライバシーにかかわる問題で現在の住民の方々に迷惑がかかるといけないからである。しかし、ここで紹介する「椋之浦過去帳」は江戸時代に限定されたもので現在への追跡は不可能であること、記載内容も個人の不利になる情報ではないことなどの理由により、あえて分析を試みた次第である。

2. 従来研究

上記のように過去帳研究は慎重を期するが、近年、公衆衛生学、地理学、日本史学、歴史人口学等の分野においてに貴重な成果があげられてきている。『椋之浦過去帳』を分析する前に、主要な

成果を整理しておきたい。

公衆衛生学として位置づけられるのが須田圭三『飛騨〇寺院過去帳の研究』（1973）で、飛騨のある寺院の過去帳から江戸時代から今日にいたる2万人におよぶ住民の死因が分析された。疱瘡が猛威をふるっていた時代を反映して明和8年（1771）から明治3年（1870）の100年間の平均死亡年齢は男女とも30歳弱であった⁴⁾。地理学の立場から災害と関連づけた研究に菊地万雄『日本の歴史災害－江戸後期の寺院過去帳による実証』（1980）がある。全国189カ寺の過去帳の記録を比較したことにより、コレラが長崎から海を伝って伝播したこと、神奈川からは同心円状に伝播したことなど興味深い結果が示されている。あるいは天明の飢饉の際の死亡は男女別では男子が、幼壮別では壮年層が先行していたのに対し、突発的な地震、火災、洪水、津波などでは、女性と子供に多いことを明らかにしている⁵⁾。

飢饉と関連付けて東北地方の267寺の過去帳を量的に分析した研究として立命館大学の高木正朗ゼミの『寺院過去帳からよみとる江戸時代の飢饉－GISを使用した死亡変動分析』（2005）がある。県別に寺院毎の死亡実数が図化されており、「飢饉による死亡者は男子が女子を上回る」という定説は秋田県では必ずしも当てはまるものではなかったとしている。その原因については語られていないが飢饉死亡者の地域差の重要性を喚起させてくれた意義は大きい⁶⁾。同じく東北地方で飢饉の社会史をライフワークとして研究している菊地勇夫がその著書『飢饉の社会史』（1994）の中で、「寺院の過去帳から飢饉死者数を推定する方法は有効な手段ではあるが、『過去帳』に記載されなかった死者たちも少なくなかったとみておくべきであろう」と指摘している点は傾聴すべきであろう⁷⁾。

このように正確な人口学的研究には多少の問題点もあるが、「過去帳」の史料的価値は「宗門改帳と並び、江戸時代人口史研究の史料として双璧をなすのが寺院の過去帳である」と歴史人口学の鬼頭宏がその著書『日本二千年の人口史』（1983）で指摘するとおり高く⁸⁾、災害研究にも応用できることは先述の菊地万雄の研究で示したとおりである。

最も新しいところでは、川口洋らはコンピューターで利用者が表示できる「過去帳分析システ

ム」を開発し、過去帳研究の基盤構築を行うと共に汎用化を進めている。その分析システムには武蔵国多摩郡の約3万1千人の被葬者が登録されており、被葬者数、年齢別死亡構造、死亡の季節性、死因など51項目に関わる人口学的指標について考察できるように工夫されている⁹⁾。川口みずからがこのシステムを活用して、一研究事例として他所死亡者について検討したところ、被葬者の死亡地は17世紀初頭から関東のみならず東海、北陸、近畿、四国、九州の広範囲にわたっていたという興味深い事実を明らかにした¹⁰⁾。

3. 因島、棕浦の過去帳

さて、従来の研究史を概観した中で、因島の過去帳と本研究の特色を述べると、第1に従来の過去帳研究はそのほとんどが中部地方以北を対象としたものであったので、西日本の広島県での過去帳の発見と分析は貴重な情報を提供することになる。全国189カ寺を対象とした菊地氏の寺院リストにおいて地方別に計算すると、北海道1寺、東北64寺、関東46寺、中部35寺、近畿0寺、中国12寺、四国4寺、九州27寺であった。中国地方の中でも因島が属する広島県は1寺のみであった。さらに島の過去帳という点でも貴重である。同氏の寺院リストにおいて離島の寺は東京都に属する八丈島2寺と三宅島4寺の計6寺に過ぎなかった。

また、内容の点で、記載年月が34年という長期に及ぶこと、年齢の記載はない者の15歳未満と以上の区別が付くこと、戒名から水死であろうとの死因が推定できること、死者の出身地および他所死亡者が確定できることなどの特徴を有している。

こうした特徴をもつ過去帳の記載内容を、死亡年月日、戒名、死亡者名・続柄・出身地・死亡地および童士（女）・信士（女）別にデータベース化したのが付表1である。記載は死亡順に書かれているが、必ずしも日付順になっていない。これはおそらく届け出が遅れた分が後日帳面の空白部分に追記されたことによる。文字の自体と墨の濃淡が明らかに異なるから追記であることがわかる。

文政12年（1829）から文久3年（1863）までの総死者数は707人であった。

4. 椋浦の集落規模と死亡率

当時の戸数は不明であるが、推測してみたい。椋浦は因島でも他の集落とは離れた北西の海岸に立地している。現在の住宅地図で数えると61戸であった。仮に、江戸時代末の戸数を現在と同等の60戸とし、1戸当たりの世帯員数は現在より若干多めに数えて5人とすると、人口は300人と推定される。

ところが実際はもっと多かったようだ。これは、江戸時代の椋浦は廻船業で非常に繁栄していたからだ。『椋浦学校史』(1992)に、宝暦以前(1750年頃)～弘化期(1850年頃)の約100年間に、「椋浦は日本有数の大型千石船を有し」、「従業者は700～800人、人家も180戸、720人と記録」「民産は船運を主とし農業はただ婦女のみ、また隣村より客作するあり」という繁栄ぶりだったとある。それが、弘化年間には椋浦の廻船業は衰退し、その後は千石船が一艘もなくなっている。同書では、天保13年(1842)の海難事故が衰退の一因であろうと述べている¹¹⁾。その18年後の安政7年・万延元年(1860)にも大海難事故が起こっているので、たびかさなる海難事故が廻船業衰退、ひいては戸口の減少に大きな影響を与えたことは間違いないだろう。

「椋之浦過去帳」の記載時期は文政12年(1829)から文久3年(1863)の34年間である。この時期における椋浦の集落人口は、残念ながら年次毎には追えないが、その初期の頃は天保の海難事故の前であるが故に180戸720人に近い数字で、最後の文久期までに急減したものと思われる。しかし、本稿では、椋浦集落の死亡率を計算する際に、この34年間、同集落がもっとも過密であったと推測される180戸720人という戸口であり続けたと仮定して、とりあえずは議論することにする。

さて、過去帳とは、ある寺の檀家の死亡記録帳であるから、村の領域とは母数となる戸口の値は異なる。1村1寺で檀家の範囲がその村に限られておればいいのだが、通常1村(藩政村：広さとしては現在の大字にほぼ匹敵)に複数の寺があるから、村の人口で、村の死亡率を示すのは間違いである。ただ、今回の場合、その過去帳が「明徳寺過去帳」ではなく、「過去帳 椋之浦分」となっていることから、明徳寺(三庄町)の檀家で椋浦村分を書き上げたものと見なしていい。

さらに問題点が二つあり、その一つは檀家の数と集落の戸数の整合性に関してである。椋浦集落の全戸が明徳寺の檀家ならいいのだが、住宅地図を見る限り、現在の椋之浦には「大日寺」が記されている。もし大日寺が江戸時代にも存在していて、かつ檀家を何軒か持っていたなら、その戸数を引かねばならない。さらに深読みすれば、この2寺以外にも椋浦の人の旦那寺があるかもしれない。ただ、『椋浦学校史』によれば、「万治三年(1660)金蔵寺が甚左衛門によって再建された。…このころから檀家制度ができ、宗門改めも行われるようになるが、椋浦に寺はできて、初めから三庄明徳寺の檀徒となったようである」とある。そこに出てくる金蔵寺はその後も廃寺になり、寛延2年(1749)に観音堂が新築されたものの坊主意休が村人から追放されたような寺である。従って『椋浦学校史』が語るように、椋浦村のほとんどの家が明徳寺(現在の明徳院)の檀家と仮定してもよからう。

もう一点は、過去帳記載の死亡者の出身地に関してである。他所で亡くなった椋浦の人と他所の人で椋浦で亡くなった人をいかに扱うかである。「椋之浦過去帳」ではこの両者が記載されており、厳密に言えばどちらかを削除すべきであろうが、本稿では前者7人(備中下道郡、兵庫、大坂2人、豆州下田湊、品川、房州)と後者5人(薩州、日州延岡城南南町、広島、加州、越後蒲原郡)をともに含めることにした。これは、ある村で行き倒れなどで亡くなった場合、速やかに出身村に返すのが通例であるという川口の見解によるもので¹²⁾、他所で亡くなったからといってそれらを除くことはしなかった。その一方で、過去帳に記載のある他所出身者は、たんなる行き倒れではなく、椋浦に居を構えていたと判断して同村の死亡者とみなした。

こうした前提をもとに椋浦集落の死亡者数の年変化をグラフ化し(図1)、死亡率を計算してみた。

1年当たりの死亡者数の平均は20人で、村人口720人で除した死亡率は2.8%になる。これは、木下太志が算出した、飢饉の被害が大きかった東北地方山形県の山家村の110年間の死亡率2.5%をこえる値である¹³⁾。最悪の年の天保4年(1833)の死者38人、死亡率5.3%は山家村の最悪時天保8年の6.6%よりは低いものの、通常時の2倍の

死者を出していたことになる。

木下は「死亡クライシス」という言葉を使い、普通死亡率がトレンド（その年を中心とした25年の平均）の50%を上回る年をクライシスの年と定義した。そして山家村の110年間のうちの13%が該当することを示し、死亡クライシスはいわゆる享保、天明、天保の三大飢饉のみに起こったのではないと指摘している。この説に従って椋浦村を検討してみると37年間のうち9年（24%）もがクライシスに見舞われていたことになる。それだけ隔年の増減が激しかった、いかえれば飢饉、疫病、その他の突発事故に遭遇することが多かったといえよう。

5. 死亡原因と性比

死亡原因は、通常の死因以外において疫病と飢饉と水死が大きかったことが図1によってわかる。過去帳には年齢は記載されていないが、童子（15歳未満）、童女、信士、信女の区別があるので、子供の死亡状況が分かる。天保4年、11年、嘉永元年の童子・童女の死者数は異常である。これは明らかに疫病（はしか、疱瘡、消化器系の病気）で、前2者は天保の飢饉との関係が強いと思われる。全国の疫病の流行年と照合する必要があるが、事実としてこの村に疫病が流行して子供が数多く犠牲になったことは確かである。

そして、水死（海難事故）であるが、これは椋浦独自の死因であろう。もう少し言い切ってもいいが、平地村・山村ではみられない漁民・海運業者の多い海村の宿命かと思う。天保13年、万延元年の信士（成人男性）の死者の多さは異常である。何故水死かという、前者の12月4日には1日で14人も死者がでており、何れも男性成人である。後者の閏3月29日でも、やはり男性成人ばかり15人の死者が出ている。かつ全員の戒名に「海」（1人だけ「舟」）の字が入っていることから、海難事故に遭ったものと断定できよう。図2の写真は「椋之浦過去帳」の万延元年のページである。

全帳をみわたして、戒名に「海」の付く人は707人中59人、内57人が男性であった。それだけ海に関係のある仕事をしてきた人が多かったといえる。同じ日に2人以上亡くなった件数が4件あったが、これも海難事故であろう。

参考までに、戒名に「山」が付く人は40人、うち男性24（うち子供1）、女性16（うち子供3）であった。島には平地がなく、海からいきなり山に入るといい。故に、「山」戒名も多くなったのであろうが、これは山で亡くなったというわけではなく、信仰の対象としての意味合いが強かったものと思われる。

死者707人中、不明者を除いて、男性390人（うち子供62人）、女性250人（うち子供67人）と圧倒的に男性の死者が多かった。子供は性別に関係ないが、成人においてその差が顕著である。これから類推するとこの村、当時は湊町としての性格を有していた椋浦の性比（女性100に対する男性数）は、数ポイント以上男性が上回っていた一般の近世村落と異なり、100を相当下回っていたであろうといえる。

海運従事者が多ければ男性人口比率が高かったのではないかという疑問があるが、男女別の人口データがなく、その詳細は不明である。ここでは、海運従事者にも家族があり女性もいたであろうと推測して、通常時（海難事故がない時）においても通常の村（非海運業村）とさほど変わらない性比であったと、考えておきたい。

6. 死亡者の年変化と月変化

図1をみると、1年ごとの死亡者数の差がありすぎる。この不安定さは近世村落の一般的な特徴なのか、海村の特徴なのか、あるいは椋浦だけの特徴なのであろうか。大量に亡くなった次の年は急減している。集落規模が小さいから当然で、もう亡くなる人がいなくなったからといえる。そんな中で、1850年代半ばから子供（童女・童子）の死者数はほとんどなくなっている。これは嘉永2年（1848）に種痘が日本に到来し、疱瘡患者が激減したことと期を一にしている。おそらく衛生状態がよくなり在村医療に進歩がみられたものと思われる。疫病はなかったようだ。

月別の死者数を図示してみたが、閏1月:1日、閏2月:1日、閏3月:18日、閏7月:2日、閏8月:1日、閏9月:2日が各月に含めてある）12月、1月の冬場と8月、9月の夏場に死者が多いのが特徴といえよう。冬の時化および夏の台風による海難事故死と思われる（図3）。

7. おわりに

以上、瀬戸内海に浮かぶ因島の過去帳を分析した結果、①死亡者数、死亡率共に東北地方で飢饉のダメージが強かった村以上に深刻な高い値が示された、②年ごとの死亡者の増減が激しく、飢饉、疫病に加えて海難事故の犠牲者が多かったことが「戒名」の分析で明らかになった、③漁村、港町故の壮年男子の海難事故犠牲者の多さから、男性過剰の近世の一般農村に相反して、性比が低い(女性過多)村であったことが示された。

小さな村で成人男性が一挙に命を落とすことが短い期間に2度も3度もあり、かつ疫病にも見舞われ多数の子供が犠牲になる年も何回もあったとなると「海村」の悲劇は平野部の農村の比ではなかったようである。小さな村の小さな事例かも知れないが、従来研究において海村の人口に関する報告はほとんどなされていないので、この「椋之浦過去帳」の分析結果は貴重な情報提供になるものと思われる。

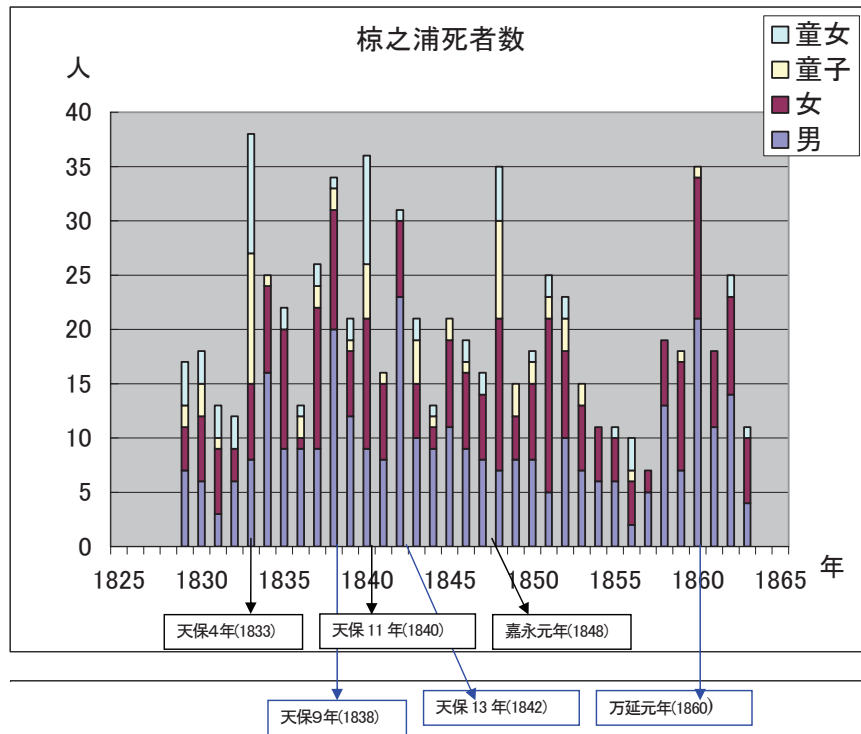


図1. 「椋之浦過去帳」による死亡者数の変化

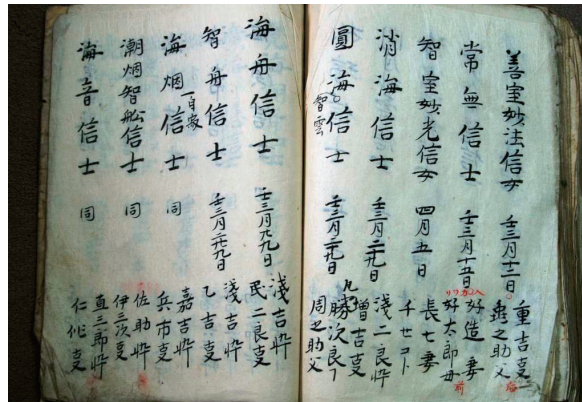


図2 安政7年(1860)3月29日の「海」の付く戒名

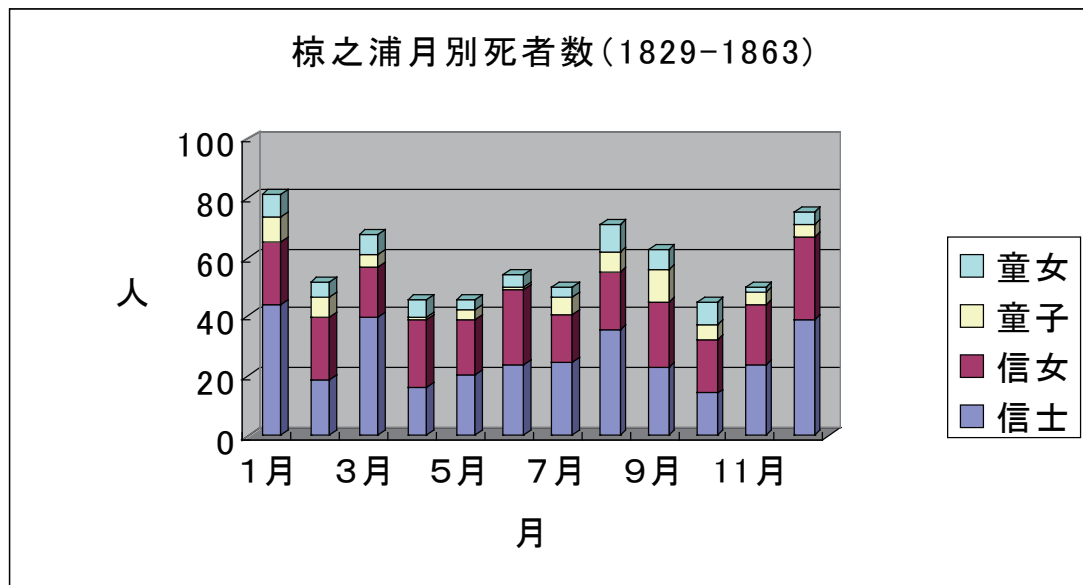


図3 「棕之浦過去帳」による月別死者数(1829-1863)

付記

本稿を作成するにあたって、貴重な資料を閲覧させていただいた明德院の加藤隆雄住職と因島での聞き取りの便宜を図ってくださった森田匡俊ご一家に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 現在の集落表示では「棕浦」となっており、本文ではその表記で統一した。ただ過去帳名は「棕之浦」となっているため、その史料表示に際してはそれに従った。
- 2) 名古屋大学地理学教室因島調査班編『せとうちの生活史 いんのしま - 29人のあしおと -』名古屋大学地理学教室、2006
- 3) 溝口常俊『日本近世・近代の畑作地域史研究』名古屋大学出版会、2002。
- 4) 須田圭三『飛騨〇寺院過去帳の研究』私家版、1973。
- 5) 菊地万雄『日本の歴史災害-江戸後期の寺院過去帳による実証』古今書院、1980。
- 6) 高木正朗編『寺院過去帳からよみとる江戸時代の飢饉 - GISを使用した死亡変動分析』立命館大学産業社会学部高木ゼミナール、2005。
- 7) 菊地勇夫『飢饉の社会史』校倉書房、1994。
- 8) 鬼頭宏が『日本二千年の人口史』PHP、1983。
- 9) 川口洋「『過去帳』分析システムの構築と活用-大都市近郊農村における民衆の死亡地-」情報処理学会研究報告、2007、49-56。
- 10) 川口洋「武蔵国多摩郡の寺院で供養されている被葬者の出身地-『過去帳』分析システムを用いた史料検討-」人文科学とコンピューターシンポジウム要旨、2007、1-8。
- 11) 棕浦記念誌編集委員会『棕浦学校史』因島市棕浦町、1992。
- 12) 川口洋：前掲注9、59-55。
- 13) 木下太志『近代化以前の日本の人口と家族』ミネルヴァ書房、2002

付表1 「過去帳 棕之浦分」 文政12年(1829)～文久3年(1863)

頁	No.	戒名	死亡月日	俗名	男女
*文政12年(1829)					
1	1	清光信士	1.08	曾吉 _コ	M
2	2	自覚宗隠信士	3.14	浅五良 _コ	M
2	3	桃林樹香信士	3.23	東 新兵衛	M
2	4	愛室妙敬信女	5.06	貞右衛門母	F
2	5	真岳良言信士	5.12	曾吉 _悴 熊太郎 _コ	M
2	6	如蓮童女	7.15	丈兵衛娘	FD
2	7	真心童女	8.16	梅之助 清蔵孫 梅蔵 _悴	FD
3	8	紅顔童女	9.04	瓦屋 嘉兵衛娘 お里 _さ _コ	FD
3	9	恵法童子	9.10	常吉孫 亀次良 _悴	MD
3	10	冷浄信士	9.09	勘助孫 直吉 _コ	M
3	11	教意童女	9.19	伊勢吉娘	FD
3	12	頓覚貞證信女	10.23	古地奥 長五良 _悴	F
3	13	紅月妙葉信女	10.23	東 小平 _悴	F
4	14	戒法恵定信士	10.06	古地ノオク 松三良 _悴 万吉 _コ	M
4	15	常巖童子	11.07	善吉 _悴	MD
4	16	不室妙二信女	12.09	吉兵衛 _悴 政五良母	F
4	17	秋岸即到信士	8.28	日州延国城下南町 久太郎	M
*文政13年(1830)・天保元年(12月10日から)					
5	18	本光妙有信女	1.08	中空 庄兵衛妻 常次郎養母	F
5	19	(阿) 屋妙叶信女	1.18	同 於菊 _コ 辰五郎母	F
5	20	説(阿) 道法信士	2.25	大セト新屋 利吉 _コ	M
5	21	本法恵覚信士	3.14	同 庄兵衛 _コ 常吉養父	M
5	22	阿聲妙叶信女	5.24	彦兵衛妻 於菊 _コ	F
5	23	心法自安信士	6.17	三居 常三郎 _悴 徳三郎 _コ	M
6	24	不染童女	6.03	兵蔵娘	FD
6	25	智光童子	7.07	金吉子	MD
6	26	正慶應成覚信士	8.11	東 政五郎 _コ	M
6	27	智秀童女	8.12	伊兵衛娘 米平孫	FD
6	28	観夢童女	8.21	新兵衛孫 浅二郎娘	FD
6	29	善法道哉信士	8.25	好蔵 _コ 好太郎父	M
7	30	妙光信女	8.27	糸二郎娘	F
7	31	幼光童子	9.04	加ジヤ豊蔵子	MD
7	32	観海乘空信士	9.21	大空 安兵衛子 伊勢次郎 _コ	M
7	33	妙恵信女	9.20	友吉子 於トモ _コ 長松母	F
7	34	自山妙由信女	10.14	長吉妻 和三次母	F
7	35	深量童子	12.13	中屋鹿之助子	MD
*天保2年(1831)					
9	36	皈法貞依信女	2.29	東栄作娘 伊セ _コ	F
9	37	夏岳道林信士	5.08	長五郎 _コ	M
9	38	栄法智繁信女	5.10	大空 勘兵衛妻 藤助母	F
9	39	玉生童女	1.15	兵蔵娘 庄三郎孫	FD
9	40	自光童女	5.24	金左衛門子 政太郎 _コ	FD
10	41	妙鏡信女	6.19	林蔵おば 於常 _コ	F
10	42	妙生童女	7.02	茂市女子 源七孫也	FD
10	43	徳室妙隆信女	8.24	下中屋 六左衛門妻 浅之助 _ハ _ハ	F
10	44	秋紅妙媛信女	9.10	東 藤七娘 ちい _コ	F
10	45	消夢童子	9.17	三居屋 七郎右衛門 _悴 房太郎 _コ	MD
10	46	海峰浄体信士	9.13	政兵衛 _コ	M
11	47	顕光妙現信女	10.27	又左衛門妻 又兵衛娘	F
11	48	一法常念信士	11.02	新吉父 米蔵 _コ	M
*天保3年(1832)					
11	49	浄頓信士	12.21	貞六 _悴 貞太郎 _コ	M
11	50	霊山妙光信女	2.06	大空 傳三朗妻 卯吉 _ば _ば	F

11	51	(照) 岳宗彦信士	2.18	千代三郎養父 彦	M
12	52	知法童女	3.15	鍛冶屋 豊蔵女	FD
12	53	明俊童女	3.27	向兵之助孫	FD
12	54	妙巖童女	9.29	六良兵衛娘	FD
12	55	授法常戒信士	5.22	忠兵衛 _コ	M
12	56	真諦授法信士	12.06	傳助 _コ	M
12	57	蓮來妙遊信女	7.31	大工 助蔵女 いく _コ	F
12	58	寒光妙雲信女	11.05	きわ _コ	F
12	59	遠岳道悠信士	6.23	儀平 _コ	M
12	60	賢覚恵蜜信士	12.18	伊兵衛 _コ 米平倅	M

*天保4年(1833)

13	61	寂夢童子	1.04	貞左衛門孫 勝平倅	MD
13	62	法空童子	1.05	浅二郎倅	MD
13	63	廣意童子	1.08	佐助娘 於 _サ _コ	MD
13	64	自性童女	1.09	武兵衛娘 佐吉孫	FD
13	65	現生童女	1.03	佐助娘 マモン _コ	FD
14	66	春光童女	1.08	忠兵衛孫 乙市娘 於満 _コ	FD
14	67	宥快童子	1.14	要蔵倅	MD
14	68	鏡見童女	1.17	濱屋 長三郎娘	FD
14	69	春峰童子	1.19	兵吉孫 兵太郎倅 直太郎 _コ	MD
14	70	蓮体童女	1.24	太三郎孫	FD
14	71	智玉童子	1.29	向新屋 房蔵倅 重三郎 _コ	MD
15	72	良忍童子	2.05	寅右衛門倅 貞次郎 _コ	MD
15	73	慈忍童子	2.05	東兵衛孫 茂平倅	MD
15	74	乘蓮童女	2.11	東新屋 仁作娘	FD
15	75	梵宝妙音信女	2.18	治平母 治平太妻	F
15	76	春夢童女	2.18	大空 庄吉子 市五郎孫	FD
15	77	芳顔童子	2.20	儀平倅 安吉 _コ	MD
16	78	法学妙念信女	2.23	東 長兵衛妻 かよ _コ	F
16	79	明体童子	2.24	保吉孫 勝蔵倅	MD
16	80	桃岸香樹信士	2.29	忠五郎倅 伊吉 _コ	M
16	81	桜林香消信士	3.05	増屋 政蔵倅 嘉助 _コ	M
16	82	貞雲童女	3.05	巽新屋 甚之助娘 於エイ _コ	FD
16	83	深応妙廣信女	5.08	大本屋 六左衛門妻 於為 _コ	F
17	84	梅光道円信士	5.13	和四郎 _コ 米吉父	M
17	85	緑覚常因信士	5.27	長九郎 _コ 仙吉父	M
17	86	海峰潮音信士	6.26	ノチ 寅左衛門 _コ	M
17	87	真法道清信士	7.26	濱新屋 藤吉 _コ	M
17	88	本源壽光信士	7.27	傳五郎 _コ 武平父	M
17	89	清室妙浄信女	8.26	条次郎妻	F
18	90	蘭體童女	8.26	前新屋 元之助娘 おやい _コ	FD
18	91	鏡月妙円信女	9.01	辰次郎妻 好太郎母	F
18	92	瑞光童子	9.05	東 為平倅 万助 _コ	MD
18	93	戴山紅葉信女	10.05	万兵衛娘 治右衛門妻	F
18	94	妙英童女	11.05	東清作娘	FD
18	95	覚純童子	12.04	六郎兵衛倅 半之助 _コ	MD
19	96	松月光照信士	12.04	大空 半五郎 _コ	M
19	97	真実恵法信女	12.29	友吉 _イ ヨメ _コ	F
19	98	梅寒童女	12.29	カ子吉娘 嘉たつ _コ	FD

*天保5年(1834)

19	99	円翁自寂信士	1.20	古地ヲク久松 _コ 文七養父	M
19	100	慈眼信士	1.20	古地ヲク久松 _コ 文七養父	M
20	101	覚宗妙心信女	4.07	瓦屋 重次郎妻 嘉兵衛養母	F
20	102	浄岸順航信士	4.20	品川死ス 浅槌 _コ 浅太郎子	M
20	103	聞覚自性信士	6.26	吉廣 秀ノ助 _コ 前徳右衛門倅	M
20	104	巳岳妙身信女	5.05	犬兵衛母 前犬兵衛妻	F

20	105	空梦常心信士	3.04	与吉ト 嘉平二父	M
20	106	一夢自空信士	4.18	三五郎ト 能太郎父	M
21	107	自性童子	7.12	和二郎倅 サツ吉ト	MD
21	108	a巖信士	7.13	友吉 長松 祖父	M
21	109	円鏡信女	7.15	伊勢五郎姉 於よしト	F
21	110	隋心常喜信士	7.18	清助ト 長吉父	M
21	111	清岸妙浄信女	7.26	木須屋 為吉妻 於亀ト	F
21	112	夏月常林?士	7.07	東藏七ト 千代父	M
20	113	普岳貞光信女	9.12	中 伊藏妻 重助養母 トメト	F
20	114	寂巖道雲信士	3.15	向 伊兵衛ト 光藏父	M
20	115	花岳常盛信士	3.05	光藏ト 伊兵衛倅	M
20	116	海壽智舟信士	10.06	良藏倅 与吉ト	M
20	117	円翁宗満信士	11.06	大空 二弟 磯右衛門ト 岩藏養父	M
20	118	潮音自空信士	12.12	五兵衛ト 和二郎養子	M
21	119	聞馨妙縁信女	12.29	安兵衛妻 於コウト	F
21	120	喜覚妙了信女	12.12	新屋 喜三八妻 秀助母	F
21	121	海遠自消信士	2.08	肥前佐嘉郎 順藏 大堂津永徳丸	M
21	122	林岳妙隠信女	8.26	勘兵衛妻 於サリト	F
21	123	遊海信士	8.07	仲五郎ト	M

*天保6年(1835)

22	124	道法信士	2.02	七兵衛ト 貞吉父	M
22	125	空山浄光信士	5.23	増屋政藏倅 新之助ト	M
22	126	戒如妙法信女	5.05	新吉妻 伊勢之助母	F
22	127	真嶽良言真士	6.19	古地ヲク 兵之助ト	M
23	128	容顔信女	3.27	長九郎孫 仙吉娘	F
23	129	仁嶽清義信士	6.26	仁作ト 於皆父	M
23	130	夏山妙光信女	7.01	向 甚助妻 於ゲント	F
23	131	三法妙会信女	7.22*	新宅奥 貞二郎妻 於重ト	F
23	132	到岸妙音信女	8.17	亀作妻 スエト	F
23	133	蓮如妙台大姉	8.18	後 嶋屋徳右衛門養母 於長ト	F
24	134	壽等妙貞信女	9.27	為藏妻 仙藏母	F
24	135	消空童女	9.27	新宅 貞二郎娘	FD
24	136	貞仁童女	10.03	万次郎娘	FD
24	137	阿室教?信女	8.12	喜七妻 兵二郎母	F
24	138	義俊智達居士	10.20	本新屋 七三郎ト 泰次郎父	M
24	139	覚法慈円信士	10.24	空中屋 東兵衛ト 茂兵衛父	M
25	140	善如妙哉信女	10.26	東 亀二郎妻 於松ト	F
25	141	法如妙性信女	11.25	東 惣兵衛妻 力藏母	F
25	142	顕顔正道信士	12.19	大工 助藏倅 兵作ト	M
25	143	阿?声妙?信女	12.27	儀八後妻 於シモト	F
25	144	雪峰良白信士	12.22	宗儀 政助ト 熊吉養父	M
25	145	独翁自眠信士	4.20	熊市ト	M

*天保7年(1836)

26	146	心月道清信士	3.04	東 喜七ト 徳次郎父	M
26	147	円岳良満信士	3.27	六五郎ト 清次郎父	M
26	148	浄意童女	4.06	松兵衛孫	FD
26	149	芳林浄香信士	5.18	芳兵衛ト 亀二郎父	M
27	150	智山妙恵信女	6.20	半五郎妻 於現ト	F
27	151	喜法道悦信士	6.18	市右衛門ト 市五郎父	M
27	152	宥念童子	8.07	末松子	MD
27	153	壽法道栄信士	9.17	長兵衛ト 役松父	M
27	154	恵覚信士	10.04	向 嘉三郎倅 輝兵ト	M
27	155	本阿常照信士	12.20	大元屋 治兵衛ト 伝右衛門父	M
28	156	智範栄道信士	11.11	新屋平作倅 勝三郎ト	M
28	157	教清道隠信士	11.10	弥兵衛養子 半二郎ト	M
28	158	寒空童子	12.16	浅藏倅 直次郎ト	MD

*天保8年(1837)

29	159	浄順信士	4.07	新や 丈兵衛古又? たか父	M
29	160	実光貞恵信女	1.04	豊之助妻 於ワキコ	F
29	161	寒室童子			MD
29	162	受光浄戒信士	1.11	徳藏倅 東榮作コ	M
29	163	霞山清光信士	1.07	佐兵衛コ 弥七父	M
30	164	蓮如妙花信女	11.13	武助妻 幸作母	F
30	165	得法受樂信士	3.14	安藏コ 貞助養父	M
30	166	智本妙光信女	3.20	竹之丞娘 ヲツセコ	F
30	167	妙蓮信女	4.02	太三郎ヱ ヲクノコ	F
30	168	定戒信女	4.12	太三郎ヨメ 伊セ 太郎ヱヲツカコ	F
30	169	空寂童女	4.16	貞助娘 ヲコマコ	FD
31	170	智山信女	4.29	久二郎娘 ギンコ	F
31	171	法室妙信女	5.07	東 好助ヱ 吉コ	F
31	172	安室妙樂信女	5.24	安藏ヱ イトウ	F
31	173	来心信士	5.24	越后浦原郡伊左衛門コ 東新屋船上乗 満願寺村人?	M
31	174	法阿光義信士	6.04	向 栄藏倅 豊吉コ	M
31	175	紫光妙瑞信女	7.23	三代目東新屋七三郎娘 フエコ	F
32	176	妙意信女	9.16	傳五郎ヱ 武兵衛養母	F
32	177	智容童子	10.06	伊勢太郎倅 松吉コ	MD
32	178	如室貞光信女	9.29	新宅 貞次郎母	F
32	179	繁室妙昌信女	10.03	佐兵衛ヱ ツモコ	F
32	180	浄光信士	11.10	象二郎倅 長作コ	M
32	181	露消童女	11.14	三五郎娘 とめコ	FD
33	182	法山義性信士	11.20	鍵屋 金三郎コ	M
33	183	妙演信女	11.21	只松ヱ 升コ 卯八母	F
33	184	覚道信士	3.15	廣嶋吾内	M

*天保9年(1838)

34	185	西閣道雲信士	1.01	兵吉コ兵太郎養父	M
34	186	瑞応良現信士	1.12	東 保兵衛コ 直三郎父	M
34	187	智方浄便信士	2.09	嶋屋 政四郎コ 江戸にて死ス	M
34	188	戒崑智定信士	1.01	作五良コ 傳作父	M
35	189	智翁道秀信士	2.20	佐吉コ 武兵衛父	M
35	190	観蓮知禅信女	3.24	金屋稲藏ヱ 寅コ	F
35	191	欽法道悦信士	4.23	寺向 和三郎コ 倉造養父	M
35	192	戒定妙恵信女	4.14*	太吉ヱ 兵兵衛母 カンコ	F
35	193	昂成道身信士	4.13*	中空 儀三郎コ 与助父	M
35	194	自法性身信士	4.16*	東 傳作コ 六郎兵衛父	M
36	195	海岸自至信士	4.29	源兵衛倅 勝兵衛コ	M
36	196	善岳恵哉信士	6.16	大空 磯右衛門養子 岩藏コ	M
36	197	昂成信士	7.02	向 平七コ 庄二郎父	M
36	198	現家貞案信士	4.11	吉之丞娘ヲ加与 コ 鏡村死ス	M
36	199	真心信士	7.26	清助兄 寅松コ	M
36	200	善岳道哉信士	6.25	六五郎孫 友松	M
37	201	蘭香信士	8.25	喜七倅 徳二郎コ 兼吉弟	M
37	202	智法信女	8.25	喜七娘 於勇コ 兼吉弟	F
37	203	法山妙性信女	9.13	兵之助ヱ 於花コ	F
37	204	観連妙悟信女	10.05	利右衛門ヱ 和三次母	F
37	205	自法妙性信女	10.08	十吉ヱ カルコ	F
37	206	利法常益信士	12.07	東 良藏コ 惣二良父	M
38	207	清心智浄信士	12.09	吉右衛門倅 為吉コ	M
38	208	寒山浄空信士	12.21	清太郎父 清吉コ	M
38	209	自性童子	12.24	新屋 重吉倅 秀助孫	MD
38	210	清室妙鏡信女	12.29	向新屋 房藏娘 和歌コ	F
38	211	一室妙念信女	7.25	卯兵衛ヱ 於麦コ	F
38	212	釈教順信士	1.22	廣島人也 喜八郎父 四良三郎コ	M

38	213	空夢自消信女	3.09	三五良	F
39	214	妙消信女	3.09	三五良娘 ヨシコ	F
39	215	消光童子	3.09	同人倅 直吉コ	MD
39	216	妙幻童女	3.09	同人倅 チカコ	FD
39	217	寂往浄性信士	5.27	大阪ニテ死ス 新三郎コ	M
39	218	寛岳貞容大姉	10.13	本新屋後 七三良ヤ 嘉勝次母	F

*天保 10 年 (1839)

40	219	観光常音信士	1.02	吉ノ丞コ 輕之助父	M
41	220	本空情念信士	1.13	中空 常三良コ 房吉父	M
41	221	春山智光信女	1.16	勘七ヤ 於マサ 好太郎ハハ	F
41	222	智廣妙観信女	2.04	亀平母ギン	F
41	223	清応信士	4.03	五作コ イザリ	M
41	224	智山童子	4.07	鈴尾倅 浦太郎コ 房蔵孫	MD
42	225	安室知a信女	6.05	東ヤ 和四良母 米吉ハハ	F
42	226	容顔妙鏡信女	6.09	向三吉ヤ 能吉ヤツマコ	F
42	227	案山常光信士	6.16	初蔵コ 清吉養父	M
42	228	覚夢妙悟信女	6.27	松三良ヤ 役松母	F
42	229	蓮香童女	8.02	豊蔵娘 於フリコ	FD
43	230	還連童女	8.07	同人娘 サカルコ	FD
43	231	智心道秀信士	8.12	大空 浅蔵コ	M
43	232	紅岳智葉信士	8.29	中空 徳松父 平治良コ	M
43	233	寂心恵静信士	8.17	新ヤ 兵三良父 平作コ	M
43	234	菊窓良月信士	9.25	向貞吉新ヤ 弥助コ	M
44	235	観岳徹心信士	9.26	市五良養子 庄吉コ	M
44	236	恵室信女	10.21	太四良娘 おさをコ	F
44	237	真法常宗信士	10.26	加州領ノ人 忠蔵コ 兼吉養子	M
44	238	得法宗意信士	11.06	瓦ヤ 嘉兵衛倅 豊之助コ	M
44	239	授法良戒信士	11.08	濱 儀助倅 要助コ	M

*天保 11 年 (1840)

45	240	松瑞慈門信士	1.03	増屋 新之助倅 嘉与次コ	M
46	241	愛光常悠信士	1.05	大瀬戸 幸之助倅 長槌コ	M
46	242	観月自笑信士	1.15	大工 助蔵倅 貞吉コ	M
46	243	春月妙貞信女	1.13	中空 源兵衛ヤ 林コ	F
46	244	恵光童子	1.26	新宅 喜三次孫 吉太郎コ	MD
46	245	光範童女	2.03	ヒサ松娘 ハナコ	FD
47	246	春光童子	2.22	喜助倅 彦次良コ	MD
47	247	浄光童子	3.06	喜助孫 長作コ	MD
47	248	歓光浄悦信士	3.07	太郎兵衛倅 坂次郎コ	M
47	249	仁山童女	3.13	音三郎娘 岩コ	FD
47	250	智山童女	3.18	平七娘 ヲヨシコ	FD
48	251	浄光童子	3.28	音三郎子 勝二良コ	MD
48	252	深法良意信士	4.04	西口屋 忠兵衛コ 倉太郎父	M
48	253	一夢童女	4.07	桶屋 菊吉倅 豊五良コ	FD
48	254	春意妙雲信女	4.09	浅七ヤ ヲロクコ儀七母	F
48	255	妙英童女	4.18	茶や 忠右衛門娘 おゑひコ	FD
49	256	妙授童女	4.12	五平娘 和三良孫 まきコ	FD
49	257	教学妙誠童女	4.23	上中屋 万右衛門娘 かせよコ	FD
49	258	智秀童女	5.06	中空 兵太良娘	FD
49	259	成光良就信士	5.13	中空 与茂八孫 伊助コ	M
49	260	禮光恵唱信士	5.16	半右衛門コ 兵作父	M
50	261	恵法妙光信女	5.18	佐吉ヤ 民平母	F
50	262	梅林童女	5.20	貞助倅 愛助コ	FD
50	263	智散童子	5.20	種平倅 喜市コ	MD
50	264	安室妙全信女	5.23	貞市ヤ たねコ	F
50	265	円応妙全信女	5.25	コジヲク 七五良母 キクコ	F
51	266	観光妙阿信女	6.05	松五良ヤ スギコ 役松母	F

51	267	成宥童女	6.22	近次娘ヲサヨコ	FD
51	268	道光義順信士	7.08	弥太良コ 源藏父	M
51	269	天山妙智信女	7.11	中空 役松姉 ツウコ	F
51	270	本阿真覚信士	7.21	大本や 新五良 好之助コ	M
52	271	恵覚妙智信女	9.11	新や 平作ヲ 兵三良母	F
52	272	満光妙誓大姉	9.29	西新や 行年九十二才 新藏ヲ 酒造藏養母	F
52	273	宝憶光信女	12.13	向中や 傳右衛門娘 銀コ 大坂死	F
52	274	道栄信女	6.14	大空 半五良倅 栄吉コ	F
*天保 12 年 (1841)					
53	275	一覚妙眠信女	1.14	大空 幸次良ヲ クラコ	F
53	276	消海自寂信士	1.26	栄吉倅 茂三吉コ	M
53	277	真如妙法信女	2.04	傳助ヲ 佐市ハハ フキコ	F
53	278	真阿妙覚信女	1.12*	好之助ヲ ツウコ	F
54	279	妙照信女	2.24	亀藏娘 カノコ	F
54	280	開法道悟信士	3.14	本新や別家 小源次コ 七三良倅	M
54	281	林山道光信士	5.18	東 和四良倅 米吉コ	M
54	282	如覚妙真信女	7.02	林藏ヲ リヨコ 相兵衛娘	F
55	283	海誉良消信士	7.10	東 新兵衛養子 常藏コ	M
55	284	海雲相悟信士	7.09	東 嘉市良倅 忠治良コ	M
55	285	善恵妙哉信女	8.29	東 嘉市良ヲ ぬいコ	F
55	286	涼光童子	9.26	西口や 吉左衛門	MD
55	287	智富妙恵信女	11.07	平五良ヲ 音右衛門娘	F
56	288	観法見界信士	11.11	米藏養子 弥吉コ	M
56	289	密法良三信士	12.23	新や 平作倅 孫市	M
56	290	禮誉道智信士	12.26	瓦や 嘉兵衛コ 勝治良父	M
*天保 13 年 (1842)					
57	291	智廣妙方信女	1.03	東 新兵衛ヲ 坂五良母	F
57	292	浄海恵性信士	1.29	吉之丞倅 吉之助コ	M
57	293	円成道実信士	2.28	竹市コ	M
57	294	清室知浄信女	3.22	文藏ヲ 和兵衛母 たこ	F
58	295	隋緑常法信士	5.29	三居 七良右衛門コ	M
58	296	密法妙教信女	6.05	二代目ノ 徳左衛門姉 ヨシコ	F
58	297	貞心妙念信女	6.24	多藏ヲ 佐太良母	F
58	298	普山浄品信士	7.15	仁太郎倅 万吉コ	M
58	299	白心道圭信士	7.27	藤助コ 貞松父	M
59	300	深夕宗夢信士	8.03	貞治良コ 藤八父	M
59	301	櫻齡智光信女	8.18	本かぎや 善右衛門ヲ 和平母	F
59	302	俊峯妙信女	8.18	新宅 吉兵衛ヲ 喜平ハハ	F
59	303	妙善童女	9.15	貞吉娘 かよコ	FD
59	304	覚法妙教信女	9.27	東 庄三良ヲ 兵藏母	F
60	305	寂円智静信士	10.05	東 庄三良倅 兵藏コ	M
60	306	善如道心信士	11.22	カシハヤ 貞市コ 房治良養父	M
60	307	廣岸慈海信士	12.04	鍵屋 友五良養子 民治良コ	M
60	308	冬風定海信士	12.04	新兵衛孫 徳藏コ	M
60	309	定源恵海信士	12.04	大空 磯右衛門倅 栄三良コ	M
61	310	海法道源信士	12.04	大空 武助倅 幸作コ	M
61	311	梵海浄音信士	12.04	源藏コ 嘉吉父	M
61	312	智舟乘海信士	12.04	源藏倅 嘉吉コ	M
61	313	海如常烟信士	12.04	伊勢吉父 伊世太郎コ	M
61	314	海臨自空信士	12.04	三居や 嘉吉倅 儀作コ	M
62	315	海烟良潮信士	12.04	儀七コ 茂作父	M
62	316	海光潮音信士	12.04	梅倅 嘉吉コ	M
62	317	海清良烟信士	12.04	重吉コ 太吉父	M
62	318	海雲常色信士	12.04	治右衛門倅 万吉コ	M
62	319	海嶋潮咽信士	12.04	佐太良倅 坂市コ	M
63	320	海岸自生信士	12.04	和助コ 芳藏倅	M

63	321	善法常光信士	8.20	源治郎養子 与吉ト 亀三良父	M
*天保14年(1843)					
63	322	観如妙音信女	1.14	和吉ト カネト	F
63	323	真清智浄信士	2.12	嘉助ト 幸吉父	M
64	324	花容童子	2.24	万吉倅	MD
64	325	得光妙意信女	4.04	イカケ 清吉ト 清太郎母	F
64	326	双誉善林信女	4.18	浅治良ト 元治良母	F
64	327	心情浄観信士	6.06	助藏ト 清作父	M
64	328	観空童子	8.02	武平孫	MD
65	329	玉樹童子	8.10	東 喜八倅 元治良ト	MD
65	330	緑覚信士	8.15	吉之丞倅 米五良ト	M
65	331	廣海消雲信士	7.27	今吉倅 繁治良ト	M
65	332	栄玉童子	9.20	前新ヤ 元之助倅 伊三槌ト	MD
65	333	諸山常法信士	9.09	東 由助ト 竹藏父	M
66	334	真清浄観信士	9.09	佐屋 利右衛門ト 菊吉母	M
66	335	遠岸自寂信士	8.08	山祢 和助ト 清之助養父	M
66	336	秋山童女	9.06*	大クビ 仁市娘 ツガト	FD
66	337	玄空信女	9.07*	重吉姉 岩ト	F
66	338	得法理證信士	11.08	梅吉ト	M
67	339	慈観常忍信士	11.18	向 由助倅 竹藏ト	M
67	340	功岳慈徳信士	12.13	仙吉ト 近治良父	M
67	341	如法妙貞信女	12.01	弥助ト ヨキト	F
67	342	妙本童女	12.24	貞右衛門孫	FD
*天保15年(1844)・弘化元年(12月2日から)					
68	343	唯法道識信士	1.13	貞吉ト 和佐吉父	M
68	344	悟道自寂信士	2.01	向 久五良ト 万三良養父	M
68	345	花盛浄香信士	3.15	七五良倅 助松ト	M
68	346	常因妙緑信女	3.01	兵太郎娘 兵吉孫 りしト	F
69	347	本室猛有信女	4.15	増屋 政藏ト 新之助母	F
69	348	善応諸方信士	5.23	種助ト 新五良倅	M
69	349	如法童女	7.22	民平娘 たみト	FD
69	350	聞心信士	7.29	由藏倅 富吉ト	M
69	351	寂心童子	8.13	空中ヤ 茂平倅 嘉太良ト	MD
70	352	廣岸自嶋信士	8.19	友吉倅 喜三良孫 長松ト	M
70	353	東海知到信士	4.08	吉之丞倅 転之助ト	M
70	354	雪岸常光信士	12.21	新ヤカキヤ 平左衛門ト	M
70	355	美山良性信士	12.27	本カキヤ 和平ト 亀三良養父	M
*弘化2年(1845)					
71	356	徳壽義満居士	1.08	前新ヤ 七良兵衛ト 元之助父	M
71	357	春雪良光信士	2.02	中空 武平ト 傳五良養父	M
71	358	清鏡信女	1.28	向 豊吉娘 アサト	F
71	359	受法常戒信士	3.13	三居 利助ト 嘉吉父	M
72	360	帰岸道依信士	3.18	古地ヲク 勘助養子 文藏ト	M
72	361	即法知成信女	3.26	利右衛門娘 和三治イモト はよト	F
72	362	恵屋妙智信女	4.21	竹ト 新兵衛孫 常藏娘	F
72	363	慈月妙鏡信女	6.13	東 伊三良娘 トヨト	F
72	364	遠遊帳意信士	6.18	大阪ニテ死ス 嘉市ト	M
73	365	最光浄勝信士	8.13	大空 庄吉倅 利作ト	M
73	366	恵山光信士	8.08	常次郎倅 幸作ト	M
73	367	本空良有信士	8.28	儀七倅 茂作ト	M
73	368	清意信女	9.02	初治良娘 おきト	F
73	369	寂a童子	9.04	初治良倅 元五良ト	MD
74	370	黄花童子	9.09	向 由藏倅 菊太郎ト	MD
74	371	光誉成寛信士	9.23	貞藏ト 想平父	M
74	372	禅光道林信士	9.03	東 平五良ト	M
74	373	慈眼無量信士	12.21	本カギヤ 和兵衛養子 亀三良ト	M

74	374	喜岳良隋信女	11.07	安三良養子 徳兵衛ト	F
75	375	意光妙隋信女	11.14	西 和平ト 貞槌母	F
75	376	梅室妙林信女	12.19	伊世次良娘 トみト	F
*弘化3年(1846)					
75	377	義堅宗理信士	1.13	東中屋 傳右衛門ト 助三良養父	M
75	378	湛然智清信女	1.17	濱 嘉三太ト 民三良	F
76	379	芳山道景信士	1.28	東 林右衛門侍 菊吉ト	M
76	380	授光恵戒信女	3.02	中空 与平ト 三之助養母	F
76	381	善能演説信女	4.19	向 亀松ト りちト	F
76	382	教含定訓信士	4.22	桔梗屋 定五良ト 亀五良父	M
76	383	成室妙就信女	5.26	伊世五良ト 房太良母 やくト	F
77	384	覚眼自声信士	6.04	又兵衛ト 元五良父	M
77	385	妙音童女	6.05	貞松娘 いちト	FD
77	386	貞順禅定尼	6.19	松本 玄庵母 きちト	F
77	387	浄海信士	7.06	コジヲク 大坂ニテ死ス 松三良倅 民三良ト	M
77	388	善性信士	7.26	徳治良ト 茂次良倅	M
78	389	観月道光信士	8.08	濱屋 清兵衛ト 長三良父	M
78	390	浄意童女	10.03	平七孫 おあい倅 うのト	FD
78	391	満岳浄円信士	10.21	川 忠蔵ト 音三良父	M
78	392	即室妙證信女	12.04	大世戸 利吉ト 房次良母	F
78	393	繁屋妙昌信女	12.04	向新屋 房蔵ト 幾治良母	F
79	394	潮高信士	11.23	古地ヲク 兵槌ト 直吉倅 勘助孫	M
79	395	寂然童子		末松倅	MD
*弘化4年(1847)					
79	396	教戒信女	2.21	弥三兵衛ヨメ 庫吉ト カツト	F
79	397	観夢童女	5.05	濱 勝平娘 カツト	FD
80	398	瑞光恵東信士	5.15	山祢 作右衛門ト 平四良母	M
80	399	愛山自敬信士	6.24	大本屋 六左衛門養子 玉治良ト	M
80	400	蘭舟滄海信士	6.18	仙吉倅 追治良ト	M
80	401	桂舟滄(深)信士	6.18	古地ヲノ 役松倅 馬之助	M
80	402	孤舟乗海信士	6.18	太平倅 松吉ト	M
81	403	潮高良海信士	6.18	東 太良兵衛倅 末吉ト	M
81	404	照珠妙遍信女	6.27	松本 玄篤ト 相太郎母	F
81	405	念西妙正信女	7.07	平九良娘 さかト	F
81	406	恵覚智等信士	7.28	西口屋 忠兵衛倅 幾治良ト	M
81	407	涼山道全信士	9.06	川島屋 豊治良 麻太良養父	M
82	408	本屋妙光信女	9.08	種助ト 廣助養母 直ト	F
82	409	円鏡信女	9.26	平五良娘 さとト	F
82	410	教意童女	10.02	幸吉	FD
82	411	真観貞浄信女	11.29	濱新屋 藤吉ト	F
*弘化5年(1841)・嘉永元年(4月1日から)					
82	412	戒岸貞法信女	12.13	与助ト 源蔵養母	F
83	413	霊空自消信士	1.17	兵之丞 兵三良	M
83	414	青松妙瑞信女	1.01	松兵衛ト 福蔵養母	F
83	415	瑞岸妙応信女	1.18	中空 米平ト 為平母	F
84	416	晴霞妙照信女	2.29	松本 惣太郎妻	F
84	417	宗心童子	3.05	貞蔵孫 宗平倅 宗作ト	MD
84	418	観岳良念信士	3.16	大空 重助父 忠蔵ト	M
84	419	性空智堂信士	3.29	大首 保太郎父 与右衛門ト	M
84	420	如岳妙意信女	4.05	源蔵妻 於ねト	F
85	421	至円功善信女	4.23	清助娘 嘉津ト	F
85	422	清月妙光信女	6.16	要助妻 房ト	F
85	423	理法童女	6.17	直三良娘 理多ト	FD
85	424	随円信士	6.28	吉松ト 音吉父	M
85	425	理法妙善信女	5.19	庄五郎娘 サント 庄蔵妻	F
86	426	紅顔青蛾信女	7.16	瓦屋 与左衛門妻 於松ト	F

86	427	帰法童子	7.20	嘉市倅 嘉助 _ト	MD
86	428	妙冷童女	8.09	和平孫 坂与 _ト	FD
86	429	高俊自徳信士	8.12	東新屋 仁作養子 利三良 _ト	M
86	430	霜深童子	8.14	平次良孫 徳松倅 平吉 _ト	MD
87	431	玄覚童子	8.21	音治良倅 儀助 _ト	MD
87	432	唱法妙念信女	8.21	新七孫 源治郎娘 宇多 _ト 亀三郎母	F
87	433	成光妙就信女	8.29	七郎左衛門孫 常三郎娘 雪 _ト	F
87	434	妙随童女	10.11	本京屋 貞五郎孫 亀五良娘 喜与野 _ト	FD
87	435	喜法童子	10.11	廣助倅 茂作 _ト	MD
88	436	皆応童子	10.14	房吉倅 源治郎 _ト	MD
88	437	幻空童子	10.21	秀助孫 虎吉倅 市松 _ト	MD
88	438	緑随童女	10.28	栄助孫 長松娘 嘉根典 _ト	FD
88	439	本空童女	10.28	木京屋 貞五郎孫 亀五郎娘 政 _ト	FD
88	440	秀玉童子	11.05	兵治良孫 松之助倅 刀之助 _ト	MD
89	441	覚幻童子	11.20	川島 麻太良 伊勢松 _ト	MD
89	442	交月智寛信士	11.22	中空 長九良孫 仙松	M
89	443	恵浄信女	11.15	白 貞松母 仁太良妻 鶴 _ト	F
89	444	阿山妙吽信女	11.16	濱 新七妻 源次良母	F
89	445	随法妙貞信女	12.10	貞藏妻 宗平母	F
90	446	寂清智消信士	8.15	薩州鹿兒島 彦右衛門	M

*嘉永2年(1849)

90	447	実恵童子	1.05	辰巳新屋 千代吉倅 金太良 _ト	MD
90	448	春円童子	1.21	寅右衛門孫 嘉代次倅 市次良 _ト	MD
91	449	廣行信女	2.27	備中下道郡(四)村ニ而死 源兵衛孫 勝平娘 於長 _ト	F
91	450	最光成勝信士	2.22	中空 重五良 _ト	M
91	451	廣修智道信士	4.21	東 禎助 _ト 卯助父	M
91	452	浮泉通宥信士	4.20	豊藏 _ト 大吉父	M
91	453	観清良音信士	7.13	市五郎 _ト	M
92	454	義範智高信士	7.28	上中屋 萬右衛門 _ト 吉之助父	M
92	455	転室浄輪信女	8.07	大本屋 芳之助母 利吉妻 長之助母	F
92	456	黄花童子	9.26	東ノ 音次郎倅 市藏 _ト	MD
92	457	松壽道等信士	9.09	松兵衛 _ト 福藏養父	M
92	458	連容貞乗信女	10.22	地本 嘉藏妻	F
92	459	縁応信士	9.29	保吉倅 兵松 _ト	M
93	460	法如妙戒信女	12.11	東 政吉妻 今吉養母	F
93	461	源山良還信士	5.28	松本 源南 大坂ニテ死	M

*嘉永3年(1850)

93	462	指山妙照信女	1.21	利助妻 嘉吉母	F
93	463	茂林永繁信士	4.12	勘兵衛 _ト 直治良父	M
94	464	緑応妙随信女	6.26	梅藏妻 軽次良母	F
94	465	智清道俊信士	5.15	平吉 _ト 勇吉父	M
94	466	勇進智勢信士	8.02	新鍵屋 友五良 _ト	M
94	467	恵秀童子	8.09	直次郎倅 初太郎 _ト	MD
94	468	紅岳信士	8.27	専松 _ト	M
95	469	潮音静然信士	9.13	大空 吉兵衛倅 卯吉 _ト	M
95	470	智勇童子	9.28	定松倅 鶴太良 _ト	MD
95	471	寛光童女	10.12	石原 与助娘 こと _ト	FD
95	472	心念妙智信女	10.13	茂治良妻 りは _ト 嘉市母	F
95	473	喜岳良歆信士	10.13	又兵衛倅 元五良 _ト ひめ父	M
96	474	秋月浄光信女	10.29	大瀬戸 衆藏妻 幸之助母	F
96	475	心法了随信士	11.08	茂治良 _ト 嘉市父	M
96	476	山入道林信士	11.29	中空 与兵衛倅 三平 _ト	M
96	477	鶴壽妙貞信女	12.13	中空 常三良妻 房吉母	F
96	478	智屋妙勇信女	12.28	カギヤ 友五良妻 カテ _ト	F
97	479	梅円貞香信女	12.29	大東 竹市妻 庄三良養母	F

*嘉永4年(1851)

97	480	春恵妙元信女	1.09	藤助妻 定松母	F
97	481	松円常春信士	1.02	秀助ト 亀太良祖父	M
98	482	春円妙雪信女	2.04	リトト 弥吉妻 万助母	F
98	483	雪光妙春信女	2.04	亀平妻 トヨト	F
98	484	智雄信女	2.29	林作母 イトト	F
98	485	空誉妙光信女	3.15	新藏妻	F
98	486	紫雲青葉信士	3.23	万兵衛養子 治右衛門ト 大吉父	M
99	487	緑心信士	4.07	保吉倅 兵松ト	M
99	488	随法信士	4.07	保吉倅 鉄治良ト	M
99	489	授法信女	4.25	条次良孫 はなト	F
99	490	安室貞心信女	6.18	萬吉母 常次良妻	F
99	491	法室妙性信女	6.09	浅五良妻 トニト	F
100	492	随法信士	7.18	林藏ト 前いよ倅	M
100	493	白顔恵連信女	7.12	幸吉妻 きぬト	F
100	494	利法妙益信女	7.26	豊吉妻 りやト	F
100	495	覚幻童子	7.29	豊吉倅 久植ト	MD
100	496	恵空信女	8.16	兵兵衛妹 とうト	F
101	497	妙貞童女	9.12	大世戸 卯吉娘 さかト	FD
101	498	海岸妙風信女	9.27	東 与平妻 せきト 平吉母	F
101	499	妙海信女	9.28	庫吉娘 きくト	F
101	500	常念妙典信女	10.10	亀十良妻 かやト 元太良母	F
101	501	法如妙性信女	11.25	禎助妻 みちト 卯助母	F
102	502	智幻童子	11.29	庫太良倅 嘉治良	MD
102	503	量屋貞無信女	12.02	市五良妻 ちよト 六治良母	F
102	504	梅林童女	12.11	太良兵衛孫 宗治良娘 たかト	FD

*嘉永5年(1852)

103	505	声法縁覚信士	1.29	古地ヲク 常治良ト 音吉養父	M
103	506	恵法妙智信女	1.30	嶋屋 徳左衛門姉 前さとト	F
103	507	花屋妙壽信女	2.17	嶋屋 静藏妻 りうト 梅藏母	F
103	508	生空童女	2.26	梅藏娘 まちト	FD
103	509	花岳浄連信士	2.14*	大空 庄助ト 栄太良祖父	M
104	510	永室妙壽信女	3.12*	大空 庄吉妻 松吉母	F
104	511	恵屋妙光信女	5.29	古地ヲク 兵之助娘 みつト	F
104	512	本空童子	6.28	松本 玄得倅 寅直ト	MD
104	513	慈空童子	7.21	幸吉倅 助松ト	MD
104	514	覚随童子	7.22	幸吉倅 留吉ト	MD
105	515	源空信士	8.01	中空 東兵衛倅 茂平ト	M
105	516	円翁智足信士	10.25	政吉ト 今吉養父	M
105	517	生演信士	9.26	長三良倅 幸作ト	M
105	518	随道信士	11.20	吉之丞倅 庄藏ト	M
105	519	寂法智静信女	11.09	大世戸 幸之助妻 トモト	F
106	520	妙本信女	11.13	長兵衛娘かよト	F
106	521	順海信士	11.27	長三良倅 伊勢吉ト	M
106	522	妙幻童女	12.03	新宅 喜平娘 キント	FD
106	523	消海信士	12.05	向 亀五良倅 定太良ト	M
106	524	海烟信士	12.11	弥七倅 岩吉ト	M
107	525	雪栄信士	12.12	平七倅 庄治良ト	M
107	526	貞室信女	12.26	東 菊吉母	F
107	527	義貞妙理信女	1.10	東中や 傳右衛門妻 助三良養母	F

*嘉永6年(1853)

108	528	妙春信女	1.10	中空 菊吉妻 世ント	F
108	529	一貫禮専居士	2.08	地本 専藏ト 嘉藏父	M
108	530	浄本信士	2.11	藤助倅 貞松ト	M
108	531	等覚信士	5.14	幸吉ト やくよ父	M
108	532	義法貞性大姉	6.25	地本 専藏妻 嘉藏母	F
109	533	海音良雲信士	7.07	豆州下田湊死 新五良養子 亀十良ト	M

109	534	壽屋妙等信女	7.19	儀助妻 はつこ 熊吉養母	F
109	535	恵覚童子	9.15	中空 徳松倅 由五良こ	MD
109	536	冬巖旅空信士	10.07	力蔵倅 万助こ	M
109	537	清光妙浄信女	10.08	新や 秀助妻 ちか母	F
110	538	消散童子	10.09	貞六孫 友太良こ	MD
110	539	浄観信士	10.10	貞六倅 貞六こ	M
110	540	恵寂信女	11.09	濱や 静兵衛妻 長三良母	F
110	541	恵等信士	11.26	向 豊吉養子 吉兵衛こ	M
110	542	妙離信女	12.15	東 伊勢治妻 直三良母	F

*嘉永7年(1854)・安政元年(1月15日から)

111	543	法覚道身信士	1.27	東 想兵衛こ 力蔵父	M
111	544	弧峯妙意信女	2.28	兵治良妻 さめこ 元蔵養母	F
111	545	義誠信士	3.10	紺や 倉蔵倅 米吉こ	M
112	546	義海信士	3.10	中空 平治良倅 徳松こ	M
112	547	法室妙卯信女	4.21	勝蔵妻 せきこ 作治良母	F
112	548	花法妙香信女	8.04	与三良妻 まんこ りき母	F
112	549	智翁常恵信士	8.11	新宅 半兵衛こ 嘉平父	M
112	550	妙灌信女	9.25	藤七妻	F
113	551	雪光信女	11.16	栄吉妻 辰三良母	F
113	552	海東恵雲信士	12.09	役松こ 卯佐治良父	M
113	553	草隠信士	7.17*	嘉市倅 信吉こ	M

*安政2年(1855)

113	554	湛然信士	1.23	三京や 嘉吉こ 利助倅	M
114	555	智妙童女	2.08	カギや 禎四良娘 ウノこ	FD
114	556	義法妙利信女	3.11	由蔵妻 よねこ 浅吉母	F
114	557	春陽信女	3.25	庄五郎娘 きせこ	F
114	558	潮烟梵入信士	6.18	向岡嶋や 種助養子 廣助こ 寅吉父	M
114	559	玄虚吹典信男	7.09	松本 泰寛弟 政治良こ	M
115	560	樹色環江信士	6.06	大空 伊勢ニテ死 浅蔵養子 傳吉こ	M
115	561	玄冬信士	10.26	重吉倅 徳三良こ	M
115	562	慈法妙眼信女	11.03	泰平妻 わさこ やつ母	F
115	563	仁室妙恵信女	12.02	古地うり 由蔵妻 菊松母	F
115	564	浄貞信士	12.03	東 力蔵倅 宗兵衛こ	M

*安政3年(1856)

116	565	恵法童子	2.01	大空 直助倅 只治郎こ	MD
116	566	春容童女	1.06	辰巳新や 潤三良娘 いせよこ	FD
116	567	円覚妙法信女	2.18	東兵衛妻 和佐治ババ	F
117	568	妙理信女	4.22	伊勢太良娘 春こ	F
117	569	光範童女	8.25	松本 玄得娘 きいこ	FD
117	570	妙泰童女	9.23	万三郎孫 ラマンこ	FD
117	571	寂室妙雲信女	9.29	米蔵妻 亀松母	F
117	572	法消常身信士	11.24	東 今吉こ 政吉養子	M
118	573	声因信士	11.11	房州ニテ死ス 新宅 安吉倅 文平	M
118	574	寂静信女	12.31	古地ノ奥 兵之介娘 於長こ	F

*安政4年(1857)

118	575	寂念信士	2.15	和平次こ 松吉養父	M
119	576	実相道正信士	3.28	上中屋 萬右衛門倅 吉之介こ	M
119	577	妙連貞光信女	5.07	常吉妻 亀次良 母	F
119	578	顕覚自教信士	9.24	石原 与介こ 由太良父	M
119	579	徳誉義清居士	11.12	嶋屋 徳左衛門こ 雅四郎父	M
119	580	妙華信女	12.28	定蔵娘 モトこ	F
120	581	獨翁自隠信士	2.11	新宅 酒造蔵こ	M

*安政5年(1858)

120	582	寂静信士	1.10	向 相平こ 定吉父	M
120	583	戒室妙授信女	5.02	忠兵衛妻 イサ 竹松養母	F
120	584	妙戒理定信女	6.02	大空 柳介妻 カナこ	F

121	585	海烟自寂信士	5.19	相兵衛ト コイセ父	M
121	586	乗連智法信士	7.03	新宅新や 貞次郎倅 藤吉ト	M
121	587	本願成有信士	8.19	向 丈介父 作次郎ト 兵庫ニテ死	M
121	588	浄法道清信士	8.14	大空 幸作倅 勝蔵ト ニツ茶やニテ死ス	M
121	589	徳心自功信士	9.03	中空 房吉ト 常三郎父	M
122	590	浄光道現信士	8.19	大空 兵庫ニテ死ス 庄吉倅 岩吉ト	M
122	591	覚随信士	8.27	和平養子 松吉	M
122	592	進勢智説信士	8.22	中空 貞右衛門倅 岩吉ト	M
122	593	本空妙貞信女	9.20	六五郎妻 清次郎母	F
122	594	実門智正信士	9.02	中空 房吉 常作ト	M
123	595	観室妙音信女	10.21	大空 浅蔵妻 カチト トウ母	F
123	596	妙體信女	10.26	古地之奥 金作妻 トク母 ハクト	F
123	597	常光明言信女	11.03	初蔵妻 初次郎母	F
123	598	常戒信士	9.04	浅次郎倅 新八孫 品次郎ト	M
123	599	魚藻宗徳信士	8.20	濱口や 金左衛門倅 民三郎弟 兼次郎ト 江戸ニテ死ス	M
124	600	俊法信士	9.14	向 源蔵ト	M

*安政6年(1859)

124	601	善善良哉信士	2.06	亀平ト セン養父	M
124	602	堅室妙固信女	3.12	中空 与右衛門妻 シカト 保太郎母	F
125	603	夏覚自妙信女	4.12	大本ヤ 源介妻 由太郎母 フミト	F
125	604	義観妙貞信女	4.15	栄介妻 リント	F
125	605	円室妙鏡信女	4.20	寅右衛門妻 嘉与次養母	F
125	606	宏範童子	5.02	定吉孫 和三吉子 吉太郎ト	MD
125	607	秀善良光信士	5.29	好兵衛倅 亀次郎ト 常吉父	M
126	608	喜法妙光信女	6.17	中空 保三郎妻 ハナト 坂松養母	F
126	609	智法貞恵信女	6.27	中空 小平妻 栄太郎ハハ カント	F
126	610	素光妙消信女	3.27	大空 勘兵衛後妻 サカト 直吉母	F
126	611	喜岸道悦信士	8.11	大空 和平倅 文吉ト	M
126	612	萬岳清光信士	8.13	東 長兵衛倅 役松ト	M
127	613	如山俊法信士	9.14	三四山 弥太郎倅 源蔵ト	M
127	614	覚随道法信士	10.28	向新ヤ 房蔵ト 幾次郎父	M
127	615	寂心妙貞信女	11.15	向 弥太良妻 サント 源蔵母	F
127	616	円寂道法信士	12.04	中空 松蔵ト 貞次良父	M
127	617	妙寂信女	12.21	於モト娘 於ウラト	F
128	618	寒光妙気信女	12.23	栄介妻 ヒサト 与吉ハハ	F

*安政7年(1860)・万延元年(3月18日から)

129	619	松瑞信士	1.02	兼吉ト 勘吉父	M
129	620	円月妙壽信女	1.28	吉之助母 伊吉妻	F
129	621	清室妙貞信女	2.24	清助妻 長吉母	F
129	622	海東自隠信士	1.26	音市倅 松蔵ト	M
129	623	随光妙喜信女	2.24	清助妻 長吉母	F
130	624	善室妙法信女	3.12*	重吉ト 亀之助父	F
130	625	常無信士	3.15*	好造妻 好太郎母	M
130	626	智室妙光信女	4.05	長七妻 チヨト	F
130	627	消海信士	3.29*	浅二良倅 増吉ト	M
130	628	円海智雲信士	3.29*	瓦ヤ 勝次良ト 周之助父	M
131	629	海舟信士	3.29*	浅吉倅 民二良ト	M
131	630	智舟信士	3.29*	浅吉倅 乙吉	M
131	631	海烟自寂信士	3.29*	嘉吉倅 兵市ト	M
131	632	潮烟智船信士	3.29*	佐助倅 伊三次ト	M
131	633	海音信士	3.29*	直三郎倅 仁作ト	M
132	634	海東自寂信士	3.29*	与助倅 伊世作ト	M
132	635	潮海消音信士	3.29*	松造倅 貞二郎ト	M
132	636	海岸信士	3.29*	長三良倅 松吉ト	M
132	637	海常信士	3.29*	萬兵衛倅 常五郎ト	M
132	638	海順信士	3.29*	初二郎倅 伊世吉ト	M

133	639	梵海潮音信士	3.29*	幸助倅 幸吉ト	M
133	640	廣海自隠信士	3.29*	元二良倅 房太郎ト	M
133	641	船消信士	3.29*	多平倅 音吉ト	M
133	642	法室妙性信女	6.04	傳作妻 スミト	F
133	643	良怡禪童子	5.27	愛造倅 友太郎ト	MD
134	644	寂翁智靜信士	8.17	大世戸 幸之助ト	M
134	645	成光妙就信女	8.22	又兵衛後妻 カルト	F
134	646	照光信士	8.23	多吉倅 与市ト	M
134	647	梵光信女	11.02	佐太良ト サヲト	F
134	648	実恵妙貞信女	11.04	和平妻 禎四良養母	F
135	649	雪岸信士	11.15	龜松養子 勝次良ト	M
135	650	徳壽禮光大姉	9.29	七良兵衛妻 元之助母	F
135	651	寒山妙光信女	12.04	竹之丞妻 スデト	F
135	652	梅岸信女	12.13	嘉助妻 モント	F
135	653	梅散信女	12.30	新兵衛娘 吉ト	F

*萬延2年(1861)・文久元年(2月19日から)

136	654	松林信士	1.02	茂次良倅 嘉市ト	M
136	655	隨応道光信士	1.10	和平ト 貞槌父	M
136	656	春光妙晴信女	1.14	松造妻 ユミト	F
136	657	本尚円乗信士	1.11	勘兵衛倅 直吉ト	M
137	658	浄空理照信士	2.16	大空 柳介ト	M
137	659	光譽妙法信女	2.28	初二良妻 ミツト	F
137	660	觀道信士	3.25	浅之助ト 網五良父	M
137	661	妙春信女	1.29	平二良妻 徳松母	F
137	662	松山自寂信士	4.15	玄篤ト 恭党父	M
138	663	声応妙縁信女	4.25	磯右衛門妻 ヨシト	F
138	664	受法信女	6.15	丈吉妻 スマト	F
138	665	恵觀信士	8.09	利作倅 利吉ト	M
138	666	秋消信士	8.19	作太郎倅 吉兵衛ト	M
138	667	秋光妙貞信女	9.21	嘉市妻 想太良母	F
139	668	智山道恵信士	9.04	庫藏ト 鶴太良父	M
139	669	頓覚妙しょう信女	8.27	房太郎妻 ツ子ト	F
139	670	東海消雲信士	12.11	ハマ 音一ト 寅吉父	M
139	671	禪覚道林信士	12.02	卯吉倅 想作ト	M

*文久2年(1862)

140	672	常応道無信士	1.22	平作倅 兵三良ト	M
140	673	光法智門信士	1.24	長松倅 龜助ト	M
140	674	寂清信女	1.26	豊トト 源助姉	F
140	675	法室妙界信女	2.26	伊世二良妻 ハルト	F
140	676	法恵信女	3.13	茂兵衛妻 コヨト	F
141	677	海舟乗消信士	1.19	輕松ト 柳吉養父	M
141	678	開蓮信女	5.17	清兵衛娘 カメト	F
141	679	盛林妙光信女	5.27	仙吉妻 ミカト	F
141	680	常哉信女	6.15	重吉後妻 カチト	F
141	681	教傳良還信士	6.20	平庫ニテ死ス 次平倅 龜五良ト	M
142	682	恵覚信女	6.18	佐助娘 ユキト	F
142	683	心月妙光信女	6.28	勝平娘 トミト	F
142	684	秋月妙照信女	8.04	浅之助娘 丈ト	F
142	685	秋山童女	8.06	音吉娘 ゲント	FD
142	686	廣海自決信士	1.25	和助養子 留造ト	M
143	687	海深自消信士	1.25	市五良倅 六二良ト	M
143	688	妙光童女	10.09	龜作孫 キヨノ娘	FD
143	689	善能演説信士	8.07*	秀助孫 金三良ト	M
143	690	智覚明光信士	1.25	栄助子 与吉ト	M
143	691	遠山暁入信士	1.25	貞右衛門孫 石太良ト	M
144	692	遠海自照信士	1.25	貞五良倅 龜五良ト	M

144	693	桃岳自性信士	3.02	ヲモト夫ト	M
144	694	靈山入定信士	11.07	金ヤ 豊五良ト	M
144	695	海雲良晴信士	1.25	善四良倅 喜太良ト	M
144	696	遠雲乘光信士	1.25	好造倅 菊太郎ト	M
*文久3年(1863)					
144	697	清山樹栄信士	1.09	饅頭ヤ 栄助ト	M
145	698	春光栄林信士	1.16	吉左衛門倅 幸一ト	M
145	699	山頭光信士	1.10	地本専造倅 竹三良ト	M
145	700	顕徳義貞大姉	2.26	七三良妻	F
145	701	春寂童女	3.01	大瀬戸 幸之助女	FD
145	702	自光妙連信女	2.15	音右衛門女 鹿ノト	F
146	703	夏雲妙晴信女	4.11	貞吉倅 与助ト	F
146	704	夏月妙光信女	5.23	平五良妻 チカト	F
146	705	壽山道長信士	6.19	定右衛門ト	M
146	706	鏡嶽妙義信女	7.02	東新ヤ 仁兵衛妻	F
146	707	清顔妙粧信女	7.06	下中ヤ 浅之助妻ト	F

出典：『棕之浦過去帳』明徳院蔵

注) FD：童女、MD：童士

*：閏月